



# 二松學舎 松蒼会報

## CONTENTS



- P2 平野光治会長 佐藤晋学長
- P3 連載 全国自慢地図② 岩手県・埼玉県・三重県・大分県
- P8 昔がたり 菅江真澄のこと
- P9 卒業生だより
- P10 卒業生の出版図書
- P11 教壇を去られる先生 / 「母校を「学問の駅」に」  
ステーション
- P12 学生会員だより / 新会長挨拶 / 創縁祭2025を開催して / サークル紹介
- P14 ホームカミングデー開催 / 支部総会開催報告 / 同期会通信
- P15 住所、氏名等変更のご連絡について / 寄付者芳名
- P16 人材バンク / 事務局だより / 訃報 / 編集後記

No.75 2026年 3月1日  
二松學舎大学同窓会広報誌

150<sup>th</sup>  
since 1877  
anniversary

## 卒業される皆様へ

松苓会会長  
平野 光治

「外国に行ったらどんな場面であつても謝ってはいけません」と言われた時代がありました。何事も裁判で決着されるからです。謝れば「悪いのは自分である」と認めたことになり

ます。日本人が「御免なさい」という相互尊重、謙虚さの美德がマイナスになるのです。相手が無理な要求をしてくるなどとは全く考えていないからです。

現在の日本の社会は「自分の非を認めない」「謝らない」傾向にあると思われてならない。特に権力者はその傾向が強いように思う。

「立場は人を育てる」ではなく、「立場は人を変える」の方が良いかも知れない。それなりの立場になればその立場に

ふさわしい人格を身につけていくという良い方向ではなく、立場で得られた権力におぼれ、その立場や権力を守ることに執着するようになる。言い方を変えれば、悪い方に変えていくということになります。

マスクミ、メディアの発展は嘘を暴く力を備えています。使い方を誤らなければ、嘘がつけない時代であると言えます。それでも嘘をつき続ける人が多い。

「お天道さまが見ている」などとは言わないが、「自分が知

っている」のだから、その事実自分として向き合うべきです。それこそが「矜持」です。体験は自分にとって事実であり真実です。その事実、真実にどう向き合うかで生き方が変わります。しかし、自分にとっての真実や事実が全て正しいとは限らないという危うさを忘れてはならない。そのうえで生き方を求めたいと思うのです。

「未来は今日何をするかによって決まる。」

マハトマ・ガンジー

## 卒業生へ贈る言葉

学長  
佐藤 晋

卒業生の皆さん、この大学を卒業され新しいステージへと進んでいかれること、心からお喜び申し上げます。もちろん新しい環境に適應するころには多くの困難が伴いますし、場合によっては耐えられ

ないようなストレスを感じてしまうこともあるかと思えます。そのような時には自らの置かれた状態を客観視することが必要ですが、そのための考え方を伝えたいと思います。

まず、どのようなストレス、不安の極限状態といつても、永遠不変の状態ではあり得ず、そのうちなんらかのきっかけで移り変わるものであると理解してください。そもそも固定した実体を持つ心理状態といったものは存在せず、なんらかの条件のもと、いくつもの原因が重なって生じている

に過ぎないものです。したがって、冷静に落ち着いて、そうした条件や原因を分析してできるところから改善していくことをお勧めします。また、一般にストレスは外部要因から生じるととらえられがちですが、実際はその人の物事の受け止め方のくせ、考え方の偏りといった「内部」から生じているケースも多いものです。誰かに厳しく注意されたとしても、それは周囲からの期待が高いことの表れかもしれません。そこで、外界の出来事をできるだけなるべくポ

ジティブな風に受け止めるようにすることをお勧めします。受け取り方によっては、ストレスになりがちなることも、反対にやる気につながることもあります。

とはいえ、社会人への移行に伴う適応プロセスは皆さんの先輩が経験し乗り越えてこられたもので、今では多くの先輩が各界で活躍していることもお伝えしておきます。ですから皆さんもきつと乗り越えられます。また何かあったときはいつでも本学を訪ねてきてください。

連載

# 全国自慢地図

2

## 岩手県支部

私と岩手山

支部長 宮本義孝 (32文)



啄木の故里、

洪民村は、我

が家から国道

4号線を北へ

12キロほど行った先にある。

だから啄木が、「ふるさと

の山に向ひて／言ふことなし

／ふるさとの山はありがたき

かな」と詠んだ山、姫神山も

岩手山も、我が家からは、良

く見える。

ただ啄木とは逆に、彼が洪

民村から近くに見たであろう

姫神山は、少し離れて小さく、

遠くに見たはずの岩手山は、

我が住む滝沢の西北に、どっ

かと居据わって、大きい。

私にとって姫神山は、お隣

の山だが、岩手山は、「おら

ほの山」と云った感じだ。

岩手山は、南部片富士と云

われるように、片そぎの、遠

くから眺めれば、山頂から裾

合目になる。ここを過ぎると、眺望が開ける。

眼下に、滝沢、小岩井、盛岡が末広がりに見える。

盛岡は結構大きな街だが、

それが自然の中に呑み込ま

れ、湖の底に敷き詰められた

小石のように、キラキラと小

さく光っている。

いつも、アスファルトやコ

ンクリートで固められた街中

で生活していると、人間は、

自分が此の世の中心であるよ

うな気になる。

しかし、眼下に広がる景観

を見てみると、自然に対峙す

るとか、挑戦するとか、征服

するとか言った気持ちはなく

なり、人間も亦、自然の中で

生かされている小さな存在だ、

と云うことが実感させられる。

驕ってはいかん。人は常に

謙虚でなくてはならない。

そう教えられるような気が

してくる。

今は、体力も気力も衰えて

むずかしくなったが、昔は、

よくこの2合目まで登って、

登山道の脇に、ちよこんと頭

を出している石の上に腰を下

ろし、遠くから、思いの外、はつきりと地を這うように上

ってくる牛の鳴き声を聞いた

り、空ゆく雲に思いを馳せた

りしたもんだ。

そういえば、李白に、「独

坐敬亭山」と云う五言絶句が

あったつけ。気分は同じだ。

衆鳥高飛盡 孤雲独去閑

相看兩不厭 只有敬亭山

私にとって岩手山は、李白

に於ける敬亭山のような山な

のだ。

最後に李白のこの詩を、私

訳しておく。

鳥も飛びたち、雲も去り

何というこの閑けさ

何時まで見ても

飽きぬのは 岩手山

ただ お前だけだよ

## 埼玉県支部

♪秩父の雲のむらさきに

支部長 青木一弥 (47文)



都道府県魅

力度ランキン

グ2025で

最下位となっ

た埼玉県。その直後に「全国



さいたま文学館

「自慢地図」への執筆依頼がありました。何と薄情な広報部かと思いつながら、気を取り直して埼玉自慢を始めます。

まずは、社会の活性化につながる人口ですが、全国5位の708万3000人。これに伴い、市の数は全国1位。小・中学校は1253校。高校193校。短大・大学併せて57校です。若者も多いはず。さらに本年度の県予算額は2兆2300億円…。

ちよつと自慢が過ぎました。

さて、文学不毛の地と思われがちな埼玉県ですが、隈研吾氏の設計で池上彰氏が館長

を務める所沢市の「角川武蔵野ミュージアム」が話題となりました。そして、埼玉にはもう一つ、文学と関わりの深い施設が桶川市にあります。

その名も「さいたま文学館」

文学作品やその他文学関係の資料収集、保管及び調査研究と県民の文学活動促進を図るため、平成9年に開館した県立の施設です。

特に明治以降の埼玉県にゆかりのある文学者の作品や文学関係資料が収集され、図書室では文学作品・資料の閲覧や調査研究への相談等も行われています。

また、文学展示室では常設展として、田山花袋や中島敦。深沢七郎に宇野信夫。児童文学の北川千代ら散文関係が11名。韻文では神保光太郎、加藤楸邨、長谷川かな女に二松学舎の前田夕暮ら8名が展示対象となっています。

さらに、ビデオ映像による彩の国文学作品の紹介や検索装置を利用した県内文学地図等、広範な来館者に向けた設備が整えられています。



さいたま文学館入り口

年4回開催される企画展では、「埼玉の文学」に始まり、「大宮公園と文学者たち」「荒川と文学」「秩父文学の旅」など、埼玉と文学の結びつきに焦点を当てた企画や、「武者小路実篤と新しき村」「詩人・吉野弘やさしいまなざし」「大木実 暮らしの詩情」などの作家・作品に関するもの、また近年においては「石川直樹企画展―雲平線と文学」「ぞうのエルマー絵本原画展」など文学の普及をめざして、幅の広い企画展が実施されてきました。

併設の文学ホールでは、講



文化ホールでの講演会

演会をはじめ、各種催しが開催されています。また、講座室・研修室には県内各地から文学愛好家が訪れ、勉強会や創作活動が行われており、文学活動の一大拠点として大きな役割を担っています。

開館当時、二松学舎大学出身の学芸員さんの案内で、埼玉支部研修会を実施したこともありました。

以上、文学館の話が中心になってしまいましたが、「秩父の雲のむらさきに 風もみどりのむさし野よ」と県歌にも詠われた豊かな自然や、小江戸川越の蔵の造りの街並みなど、多くの自然・文化遺産が存在します。

関東へお越しの際は、ぜひ、埼玉へもお立ち寄りください。

三重県支部

天下の文藩

支部長 小川直紀(44文)

三重県は

「伊勢神宮が

鎮座する国」

から始まり

江戸時代後期、全国で200

を超える諸藩のうち「天下の

文藩」と讃えられ、教育学

問に秀でたのが津藩。文政3

(1820)年に開いた藩校

「有造館」でその三代督学が、

全国に文名が轟いた斎藤拙堂

である。



津藩校の入徳門

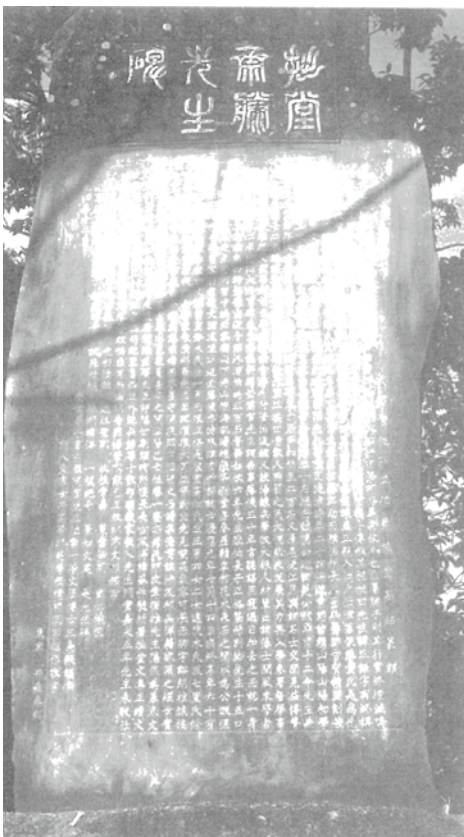
三島中洲が23歳で伊勢の津に出て師事し学ぶこと五年。15種ほどの著作も残し「備中に三島遠叔あり」と評判にもなり「余の学、半ば津に成る」と中洲は述懐する。

拙堂の玄孫が顧問となる齋藤拙堂顕彰会に三重県支部も団体会員として協賛、小中学生書道展を理事として前支部長と企画運営にも参加。

中洲の師、拙堂は郷土が誇りにできる津藩の儒学者で詩文に秀でており、文章家として有名であったが、本人は経世家であることを望んでいた。しかし経世の実務をする機会はほとんどなく、そのためか「国学者拙堂先生」と言う人が意外に多い。戦前、日本中の旧制中学校で採用された検定漢文教科書には各学年必ず拙堂の文章が幾編か掲載されてはいたが…。



斎藤拙堂(池田雲樵筆)



津市偕楽公園内斎藤拙堂頌徳碑(拙堂の晩年の門人である中洲撰によるもの)大正5年建立(110×256cm)

ところで、国学者といえは、拙堂は伊勢松阪の本居宣長に敬意を払っていた。が、だが儒学と国学とは研究対象も思想的にも大きな隔たりがある。



宣長 61歳

本居宣長については、平成12年に入手した寛政10(1798)年の「藤木田佐市」宛て手紙の内容から、宣長の有名な門人である「大館高門」と従来

の説によると準門人とされてきた藤木田佐市が同一人物であることが判明、学会で立証され、『鈴屋学会報』22号に未発表の貴重な資料として手紙全文が公開される。この手紙が語る史実により宣長の門人が一人減る発見となる。今回は二松学舎との縁により拙堂の紹介を先に、宣長についてはたくさん資料があるので、各自「自調自考」されたし。最後に宣長と谷川士清(こ

## 大分県支部

明るい未来は必ず来る

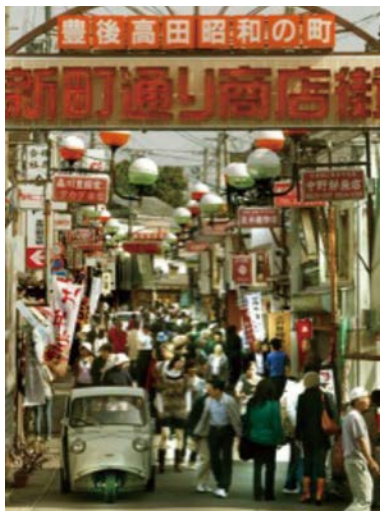
河野 潔(40文)



今年は「昭和100年」、そして、新市施行20周年を迎えた私が住む「まち」豊後高田市。人口わずか2万2000人、大分県国東(くにさき)半島の北西部に位置しています。その市がまさに、「昭和のまち豊後高田市」として、全国的に認められ、多くの観光客が訪れる街となっています。

明治以降から昭和の初期まで、海運の要として商業を中心に発展してきた豊後高田市ですが、その後、多くの市と同様、衰退の一途をたどっていました。私は、その頃のタイミングで市教委にいましたので、何とかしなければならぬと、市をあげて対策に取り組む一人として、主体的に多くの事業にかかわることになります。

商店街を中心とした商業の復活、そして工業団地の誘致、教育のまちづくり等々、多くの取り組みを展開することになり、私には学力向上を中心とした「公教育」において、他市より優れた教育の事業を可能にする取り組みのミッションを与えられます。他市にはない豊後高田市の「教育のまちづくり」です。そこから「教育のまちづくり」と移住、定住を結び付け、豊後高田市の大きな柱の一つとして進めて行くこととなります。



現在のにぎわう昭和のまちの様子

商店街を中心とした商業の復活、そして工業団地の誘致、教育のまちづくり等々、多くの取り組みを展開することになり、私には学力向上を中心とした「公教育」において、他市より優れた教育の事業を可能にする取り組みのミッションを与えられます。他市にはない豊後高田市の「教育のまちづくり」です。そこから「教育のまちづくり」と移住、定住を結び付け、豊後高田市の大きな



市立幼稚園「学びの21世紀塾」土曜日講座(英語)の様子(市内20か所180講座が開催中)

な柱の一つとして進めて行くこととなります。

豊後高田市は市内幼稚園・小学校・中学校の学校給食の無償が始まり8年が経過しています。そして、今年度から市内唯一の県立高校の高田高等学校に給食センターを活用した昼食を無料で提供を始めた。多くの課題もありましたが、何とかクリアしてきました。8カ月が経過し、高校生や保護者に大変喜ばれている取り組みになっていきます。

豊後高田市では40数年前から「教育のまちづくり」をテーマとして取り組みを始め、その中心が「学びの21世紀塾」の立ち上げでした。平成14年のスタートで、完全学校



「学びの21世紀塾」冬季特別講座の様子

週五日制のスタートが同時だっただけに、ゆとり教育と土曜日活用という矛盾の中でありましたが、それを乗り越えて今年で24年目を迎えています。



全国各地の自治体からの視察の様子

「土曜寺子屋活動事業」や「わくわく体験活動事業」、「のびのび体験活動事業」など学校教育のすき間に地域の教育力を生かそうとしたのです。始めて4、5年は悪戦苦闘の連続でしたが、社会の状況も随分と味方となり、「文科省の土曜日教育活動推進プロジェクト」のモデル指定を受けることになりました。そのため全国の自治体からの訪問を受けることが多くなり、多い年は沖縄から北海道



高田高校生のための学びの21世紀塾  
「公設民営塾『うみね』」の様子

まで年間100自治体が来られました。更には、当時の文部科学大臣が2013年5月に視察に来られて、「この『学びの21世紀塾』のよくな土曜日の有効活用があるんですよ。」と記者発表をし、文科省の推奨する土曜日活用の「豊後高田方式」として全国に発信をしていただきました。そのことはその後の取組のモチベーションを上げることにも繋がり、学校の教職員、保護者、地域の人たちと協働して「教育のまちづくり」がますます推進されることになりました。

この学びの21世紀塾がスタートして24年の歳月が経ち、多くの課題も克服し、改編も

繰り返しながらも着実に前に進み、幼稚園から小学校、中学校、高校まで、一貫して取り組む教育体制はわがまちの誇りでもあります。

なかでも、公立幼稚園教育の充実はかなり重点的に進め、満三才児保育の導入をはじめ、英会話・文字教室・体操教室の外部講師の派遣、通園バス、預かり保育などを積極的に推進するとともに、幼保小の架け橋期のカリキュラムも作成・実践しているところです。現在では、県内で最も人数も多く、人気のある園として充実した幼稚園教育も実施しています。また、市内唯一の県立高校へは、昼食の無料提供の他にも、4年前か



豊後高田市役所庁舎に掲げられた懸垂幕  
(高田高校の大学進学成果、中学校の  
駅伝全国大会出場を讃える幕)

ら高校生のための「学びの21世紀塾公設民営塾」を設立し、大学受験をはじめ高校生の進路を支援しています。放課後、夕方の5時から夜の9時まで、教育会館と中央公民館で公営塾を展開しています。現在110名が塾生となり光り輝く場所にもなり、幼稚園、小学校、中学校、そして高校までの「教育のまちづくり」が出来ています。

私は1949年生まれ、76歳になり、教職55年になるうとしています。その中の25年が学校現場で、約30年を教育行政に身を置いています。こんな歳になるまで、子どもと教育に携われることを大変幸せに感じています。私は現在「教育発展中」のワッペンを若い教職員や市の職員とともに胸につけて、教育行政を推進しています。これから、何よりも願うことは、子どもたちの未来がもっともっと明るくなつて、大きな夢をつかみ、幸せなものになることです。

結びに、子どもたちを育む

この豊後高田市には多くの貴重な文化財や名勝があり、その最たるものは世界農業遺産の里「田染の庄 小崎」の田園風景と九州最古の木造建築である国宝「富貴寺大堂」です。

ご訪問いただき、中世文学の風をぜひ肌で感じてもらいたいと思っております。心からお待ちしています。



～九州最古の木造建築～  
国宝 富貴寺大堂  
いちよの葉で埋まる秋の様子



～田染の庄 小崎(おさき)の夏～  
現在は収穫後の田んぼに  
約1万2000個のイルミネーションが  
かがやいています。

昔がたり 菅江真澄のこと

金井 康 (41文、10院博文)



今は昔、天明三(1783)年、山家の中道を訪う旅の人

人がいた。三河国乙見荘岡崎の白井秀雄と名乗った。五月廿四日に洗馬宿に至り、今は本洗馬熊谷家に滞在、束摩のかなたこなたを見巡っている。色白で小柄だが旅慣れた物腰。学殖豊かな話しぶりだったそう。

前日、洗馬を出て桔梗ヶ原から丑寅に、牛伏寺の山裾を片丘、中山と辿り、筑摩神社に詣で、薄川を東に遡り、須々岐水神社に参詣し、その足で桐原牧を訪れたそう。桐原は官牧として朝廷に馬を献上してきた一帯である。昨夜は束間の白糸の湯に泊まったそう。『日本書紀』に行宮「束間の温湯」計画が記され、『宇治拾遺物語』に「筑摩の御湯」とする「つかまのみゆ」。その御湯で中道の在るを知らされたふうだった。

家の主、金井清治良が応接した。石垣に囲まれた五千坪の屋敷には土蔵・板倉などが立ち並ぶ。本棟造の母屋は百坪。日用の大戸口の左一間を隔て、二間幅の式台を設えた「玄関」がある。

旅の人は、乳門(門扉に乳鉾のある門)を潜り、離の座敷に通された。長押には、「此君亭」と大書する額があった。水車の側板一片を材とした弧形、鄙びた趣がある。暫し『晋書』や『枕草紙』に話が進む。黒竹の篠群と真竹の竹林が葉音を奏でる。庭前の池塘は湧水。岩組の脇に小笠原牡丹の葉と花治まりの実が見える。主は、林城主小笠原長時から曾て拝領の株で、香り高き花は真白に咲く八重の大輪と語る。旅の人は、花玉の根皮は生薬になると話す。『本草綱目』に記すと。旅人はその後も時おり立ち寄った。消息も寄せてきた。

八月十三日からの七日間は姨捨・善光寺に紀行し、その帰るさには浅間の犬飼の御湯自庵に泊まったと。可児

永通の家(熊谷家)に帰着したのは十九日だったそう。洗馬逗留一年余、訪れの終いは天明四とせ文月初めのことだった。束摩を去るにあたり、数日を白糸の湯に過ごし、知己の家々に別れを告げ、越のうしろ洲へと旅立ったそう。旅の人白井秀雄は、後の菅江真澄。消えゆくばかりの昔語りではある。



- (1) 山家の中道：山家は地域の名。山辺とも。中道は屋号。家紋は「丸に違ひ鷹の羽。中山道脇往還(荷駄道)の宿駅上金井驛にて菅農管林し、傳馬人足の徴発をし、代々の松本藩に篋の女竹・真竹(矢竹)を納めてきた。
(2) 束摩：「つかま」は、筑摩・束間とも書かれてきた。束摩野・筑摩野は「つかまの」、筑摩神社は「つかまじんじや」、束摩御湯・筑摩御湯は「つかまのみゆ」と読む。薄川の扇状地から広がる松本平。安曇野南部域。
(3) 旅慣れた物腰：年格好三十路ほど。若くして本草にも詩文にも図絵にも故事来歴にも通じていたという。
(4) 桔梗ヶ原：善光寺に奉納する般若経を運ぶ牛が倒れ伏した伝説から、古くは「来経原(ききやうはら)」と。
(5) 牛伏寺：鉢伏山の中腹に位置。「牛

- に引かれて善光寺参り」で知られる寺。真言宗智山派。山号は金峯山。黄鉄鉾が出る。「来経(ききやう)原」の東に位置。道すがら振り返ると、いらいらが岳(穂高岳)の鋭い峰峰が連なり聳える。創建は聖德太子の頃と伝わる。
(6) 須々岐水神社：通称「薄宮」。境内は上金井と薄町に跨がる。御柱祭は卯酉の年。当時の神主は上條義高か上條要。貞観・延暦の記録に載る古社。
(7) 桐原牧：藤原公任編「北山抄」巻二「年中要抄」に「応和元年十一月四日、駒牽之儀。召桐原駒甘足、於南庭覽之。」とある桐原。官牧(諸国牧)の一。牧域は王ヶ頭の西山麓一帯に広がる。
(8) 束間の白糸の湯：『日本書紀』巻第二十九(天武天皇紀十四年)冬十月条に「壬午、輕部朝臣足瀬、高田首新家、荒田尾連麻呂、於信濃令造行宮、蓋擬幸束間温湯敷」の計画が記され、「宇治拾遺物語」六一七に「今は昔、信濃国に筑摩の湯といふ所に万の人の浴みける薬湯あり」と記す「つかまのみゆ」。白糸の湯、湯の原とも称す。なお、この年の「十月壬午」は十月十日。
(9) 家の主：山家の中道(屋号)の当主。代々、清治良(清次郎)を名乗る。須々岐水神社の氏子総代。戦国末期は深志城主小笠原貞慶に仕えた。江戸になっても小笠原長重の許で組手代として代官役を務めた。松本城主水野家六代を差し「独礼」の榮譽・身分(中小姓役)を賜り、苗字帯刀を許された。屋敷の南は一町弱で桐原に隣接。
(10) 本棟造：信濃国南部に江戸時代初めから見られる板葺・切妻造・妻入の民家様式。勾配の緩い大屋根と雀踊り(屋根飾り)が特徴。宿場本陣や庄屋に多い。当家は妻側の壁に横下見板を施す。
(11) 式台・玄関：通常の二間幅の大戸口とは別に、二間幅四畳大の板敷きの式台を設えた「玄関」が妻側に並ぶ。松本藩からの客は駕籠を降りる際、履物を使わず、直に式台から下座敷(十畳)・上座敷(十二畳)に入る。脇壁が

## 卒業生だより

その眼差しをもって…

熊谷勝広 (50文)



旧約聖書  
学・倫理学の  
泰斗―かつて  
望外のご縁を

いただき薫陶を受けるに至った―関根清三先生は、20年近く前に書かれたエッセイ「本の真贋」の中で、次のように述べられている（引用者の要約）。

〈還暦も近づく自分のような歳になったら、今まで読んだ本の中で豪華な充溢を感じられたものを繰り返し読むことも重要になるはずだ。むしろそうした数少ないホンモノとの熱のある徹底した付き合いに自己限定していく時期に來ていると予感している。〉  
はてさて、還暦をとうに過ぎて古希に向かわんとする途上の、「自己限定」に舵を切るほど読書を拡充した覚えもなき我、残された日々徹底して付き合うべき「ホンモノ」とは、如何なる書にやあらん…。

向田邦子の小編を引いて、「あたたかさ」が本の真贋を見分ける基準だとされる関根先生の言葉に依拠するならば、例えば石牟礼道子さんの著作は、私にとっても間違いなく「ホンモノ」である。

とりわけ―その出逢いは数年前なれど―『あやとりの記』は生涯の1冊である。すでに6回読んだが、いまだ真に「付き合い」されてはいない。

私はこれを、いつも音読する。この世からふと離れたたくなったときも、この世の人たちが無性に愛おしくなったときも。冒頭の「かつし、かつし：」という「柔らかない蹄の音」は、私をへもう一つのこの世へへと、いざなう…。

石牟礼さんに言葉を託した〈語らざる人々〉を想って、石牟礼さんは「患者さんたちへの眼差しだけでも…」と、言葉を遺した。私はその眼差しをもって『あやとりの記』の世界に入り込み、「みっちん」とともに、「犬の仔せつちゃん」や「ヒロム兄やん」を、これからずっと、眼差

していく―。

来年もまた会おう

古谷永子 (50文) 旧姓鈴木



今年もまた、11月の連休にいつものメンバーに会いに行った。

「元氣かい?の会」がスタートしたのは、つい3年前のこと。劇団黒百合の豊田博文(49文)さんが急逝した秋だった。

その時「一度みんなが集まろうよ」ということになり、学舎祭に合わせたの再会の場が設定された。

最初の年は豊田氏を偲び、献杯をして始まった。40年ぶりの再会だった…。

今年の話題の中心は我々が入学した年に完成した、当時の新校舎についての思い出だった。今年の夏が暑すぎたということから、当時はエアコンがあったのかということになり、「なかったよ。あったのはLL教室だけだった」と誰かが言った。すると「LL教室に入ったことはあるか」とい

備わり、一尺の框を上がった座敷には、格子欄間や舞良戸もある。本棟造でも、特別な様式が許された造り。

(12) 乳門：乳鉢(ちびやう)を打った門扉。建造は藩の許可制。「独礼」に相応の格式。上級の武家屋敷に許された。

(13) 水車の側板：水折五分の弧で一尋巾。大川端の水車小屋で使っていた大きな水車の輪の一部。

(14) 晋書：二十四史の一。「此君」の典故とする説話が載る。

(15) 小笠原牡丹：国宝松本城天守築城400年記念行事に際し、松本市の求めにより、平成13年11月7日、松本城に三株の小笠原牡丹を山辺の中道より寄贈(牡丹の里帰り)。内一株は松本市より小倉城へ贈られた由。平成14年5月5日、松本市長有賀正より寄贈者金井文穂(父)に感謝状。

(16) 小笠原長時：戦国大名。天文十年信濃国守護。天文十七年塩尻峠の戦いで武田信玄に敗れ、金華城(林城・深志城)を明け渡す。子の貞慶は信長・家康に仕え、深志城を奪還。孫の秀政は松本藩から古河藩、飯田藩に転封となるが、曾孫の長重が松本藩主に復帰。その子忠真は信濃松本から播磨明石、豊前小倉と転封。小笠原諸島を発見した貞頼は貞慶の一族。小笠原氏は元は信濃国守護大名。

(17) 浅間の犬飼の御湯：「つかまのみゆ」と紛れがちだが、東間の湯から山裾を二つほど西北西に離れた地で、犬飼大臣伝説がある。間には尾根掛と呼ばれる湯地がある。

(18) 可見永通：美濃可見郡の出身。三河に住む頃からの医業本草を通じての知友。熊谷家に入婿後も可見を名乗る。

(19) 知己の家々：つかまのみゆで数泊。東摩の知り合いを訪ね挨拶。須々岐水神社に詣で、山家の中道も訪ね、越後に向かうと告げた。洗馬出立は天明四年六月晦日。芳違の趣向に重なる。

(20) 消えゆくばかりの昔語り：私は最後の伝承者と思われる。

う話になり「私は入ったことがない」とか「数回だけ入ったがエアコンが動いていたかどうかは記憶がない」とかいろいろな意見が飛び出した。そして最後には「優秀な学生しか入れなかったらしい」ということになった。

どおりで私はその部屋があったことさえよく覚えていないはずだと大笑いした。

年に一度、大学近くの店に集まって、遠いあの日に皆で戻って行く。膝が痛いとか小さい文字は読みにくいか言いなながら「来年もまた会おう。元気でね。」と握手して、市ヶ谷の駅で解散するのだ。

そして、酔っぱらってふらふらしながらとったピントの怪しい写真を、慣れないスマホ操作に手こずりながら送信しあっている。

## 二松學舎との出会い、 そして今

金田 仁志 (53文)

昭和60年3月国文学科を卒業後、1年間中学校で臨時教員を勤め、次年度群馬県採



用試験に合格し仕事を始めました。四十年前の中学校

は、テレビの影響か時代の流れか非行や対教師暴力が当たり前で今とはまるで違う環境でした。

その状況化の中で国語を教えるというよりほぼ生徒指導の毎日で、私自身が不登校に陥ってしまいそうな不安な生活でした。ただ当時の同僚の先生方の支えや協力があって、その厳しい環境を乗り越えて年齢を重ねた今では、笑い話になるくらいに懐しく思い出されます。

その時代でも心優しい生徒も多く、今ではゴルフや飲み会など親しく交流を持つようになりました。これはまさに教師冥利に尽きるということでしょうか。

二松學舎の多くの友人は真面目で国語教育に真摯に向き合うタイプです。ただ私はそれとはまるで正反対の人間で

す。その私がなぜ教師を目指したのか。その理由は小さい頃から長嶋茂雄選手にあこがれ、大好きな野球を中学生と共に学びたかったからです。その夢はまさに叶い、35年間の長きに渡って野球部顧問として野球に携わることができました。

4年前還暦を迎え退職し教員生活に別れを告げました。現在は、初任者研修後補充の非常勤講師として年間30日の仕事と、週4日の幼稚園送迎バスの運転手をしています。

再任用は続きませんでしたが、月に3日4時間程度の授業は行っています。確かに授業の準備は面倒ですが、いざ生徒の前に立つと不思議と心は弾み、嬉しさ楽しさまで込み上げてきます。

長きに渡り教員生活を続けることができたのも、今振り返るとこの二松學舎で友人と学んだことが基本にあったのだと今さらの様に痛感しています。

## 卒業生の出版図書

中村且之助 (34文)  
歌集「地平線」



新星書房  
2500円  
2025年  
11月刊

歌集「地平線」上梓なり二松學舎に贈ることを思い立ちました。

大学では、同人雑誌(小説)の会に入り友人と切磋琢磨していました。

先生方には斯界の雄とも言うべき人たちが名を列ね、学生も木造の校舎でよく勉強していました。

先生方は父とか兄のような存在でした。その様子も歌の中に出てくるので、図書館の片隅にでも置いてもらえたらと思います。

内容は69歳から83歳までのもので、母妻の看取りから家族親族友人恩師の人々を詠んだものです。卒業後60年が経ちました。早い!

## 教壇を去られる先生

## 生き方のコツ

元学長、文学部教授

江藤茂博



皆さんご卒業、おめでとうございませう。私も、皆さんと一緒に、ここを「卒業」

します。目の前には、大きな荒野が広がり、私たちはいかようにも、肥沃な土地へと切り開くことができそうです。実際、皆さんにはどこまでも切り開いてもらいたい。ただ、私は、今度は短距離ランナーとして、次の世代にバトンを渡すために、この荒野に向かいます。さて、少し先を歩いてきた人間として、生き方のコツを私は伝授したいと思います。まず好きな仕事をやる。これは少し難しいかな。好きなことと仕事とは結びつかないと、皆さんから文句が出そうです。では、言い方を変えて、好きでないこと、嫌々ながらやらされること、嫌々ながらやらされること、ご自分の好きなこと、近いものを見出してください。そうすれば、皆さんの

嫌な仕事は、やがて好きな仕事と結びつくことになるでしょう。

次に、志ある人（書物）と付き合う。必ずしも同志でなくても、なるべく大きな志を持つ人と関わるほうがいいですね。志とは、もちろん権力や金銭などへの欲ではなく、人や社会のための理想や理念です。そして、悪口や愚痴を言うような人とは関わらない。他人の悪口を言うようなひとは、必ずどこかであなたの悪口を言う人だと思えます。とても心が貧しい人です。最後に、複眼のまなざしを持つ。二、三步先のことと、遠い先のことを同時に見る眼でしょうか。自分の事だけでなく、他人の事も考えられるような、配慮の力と考えるもいいかもしれません。先を読める人は、他人に配慮もできます。配慮できない人間に、先が読めるわけがありません。そんなことを、私はこの表現に込めてみました。このように生き方にはコツがあったとしても、荒野は一人で切り開くしかありません。大いに活躍してください。

## 母校を「学問の駅」に

ステーション

高橋映子（53文）

### 学問の敬意、歴史的眼差し

昨秋、所用のため夫の故郷・福岡市に出かけた。ふだんは鳥飼八幡宮に詣り、入口横に建つ中野正剛先生像に一礼する習慣だが、その日は夫のナビで少し先まで足を伸ばすことにした。4、5分歩くと存在感ある山門が現れた。浄土真宗本願寺派の浄満寺。門横に「亀井南冥・昭陽両先生墓所」と刻まれた石碑があった。江戸中期に活躍した医師で儒学者の亀井南冥。私塾亀井塾を開き、その間、福岡藩主による東西2つの学問所新設の際、東の修猷館（現在の修猷館高校。夫の母校）と並ぶ西の甘棠館の学頭に。大火に見舞われ14年で廃校するが、南冥の徂徠学を主とした亀門

とも浅からぬ縁があるみたいだ」と夫がひと言。ご縁を感じ、浅学ゆえかえって関心を持った。中洲は南冥の実学の精神を敬愛し、顕彰している。国学や漢学という知を守りながら安住せず、幕末・明治の急速な国際化の波に主体的に応じ続けた。己の文化や歴史を見つめ、世界へ羽ばたこうとする信念、その根底には南冥の実学の精神も息づいていたのではないか。

学は長男・昭陽に継がれ、私塾は百年間続いた。「南冥は福岡の知の巨人、三島中洲

本学が「グローバル」「学際」という潮流の只中にある今、伝統的な国学・漢学の蓄積を武器に、真の知的冒険をアピールすることは150年におよぶ中洲の魂を受け継ぐことになるのだろう。静かな境内にある亀井一族の墓前で得た新しい学びの芽。

学は長男・昭陽に継がれ、私塾は百年間続いた。

「南冥は福岡の知の巨人、三島中洲



「亀」を集めて40年近くになる。日頃から「亀」の文字や姿を見つけては見境なく写真を撮り、グッズを入手。亀井南冥。「ん？亀…見つけた!!」

## 学生会員だより

## 新会長ご挨拶

国際政治経済学部2年

峯嶋樹音

このたび、二松学舎大学学生会長に就任いたしました。国際政治経済学部国際政治経済学科の峯嶋樹音と申します。学生を代表する立場として、この職



をお預かりする責任の重さを強く受け止めております。学生会は、学生生活を支える組織であると同時に、本学の魅力を内外に発信する役割を担っています。その中でも、創縁祭は、二松学舎大学の特色や学生

の主体性を最も象徴する行事であり、学生会の活動において極めて重要な位置を占めています。創縁祭は、各団体様にとつての成果が形となって表れる場。学内最大の場であり、学内にとどまらず、地域や来場者との新たな繋がりを生み出す機会でもあります。その運営には、責任ある判断、

そして多くのサークル等の団体の方々との信頼関係が不可欠です。私は会長として、創縁祭が安全かつ充実したものとなるよう、準備段階から丁寧な運営体制を整え、連携を大切にしていきたいです。また、そこで得られた経験を次年度へと継承し、学生会活動全体の質の向上につなげていきたいと考えております。学生が主体的に関わり、達成感と誇りを持てる創縁祭を実現することが、大学全体の活力になると考えております。

これまで二松学舎大学が培ってきた伝統を尊重しながら、時代に即した新たな工夫を取り入れ、創縁祭を通じて本学の魅力をさらに高めてい

く所存です。未熟な点多々あるかと存じますが、任期の最後まで誠実に職責を果たすことをお誓い申し上げます。今後とも学生会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 創縁祭2025を開催して

学園祭実行委員会委員長

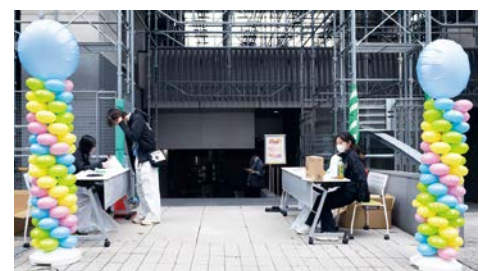
国際政治経済学部3年

田嶋詩穂

11月2日(日)、3日(月)

祝)の2日間にわたり「創縁祭2025」を開催いたしました。今年度は外壁工事のため中庭での模擬店を開催することが出来ず縮小して行いましたが昨年度よりも多くの来場者様がお越しください規模の大きい創縁祭となりました。創縁祭を無事に行うことができ学園祭実行委員会一同喜ばしく存じます。

「創縁祭2025」は各ゼミナール・参加団体の皆様の発表や活動などを行いました。参加団体の皆様からは「日々の活動の成果を発揮で



して満足していただけたと、様々な嬉しいお言葉をいただくことが出来ました。

来場者様からは「学生の活動を見られてとても満足した」、「二松学舎大学の良さが出ている学園祭だった」等、心温まるお言葉をいただくことが出来ました。

創縁祭を通じて二松学舎大学の良き文化を知っていただき、大変嬉しく存じます。

また、オープンキャンパスにお越しくださった方々も創縁祭に足を運んでくださり、学生と交流をさせて頂いて二松学舎大学での縁が結ばれたことを実感いたしました。

創縁祭にお越しくださいました

きて良かった。「多くの方々に見てもらえて嬉しかった」など、創縁祭で活動が出来たことに対

来場の皆様やご参加くださった団体の皆様はもちろんのこと、ここまで私達にお力添え賜った父母会・松苓会・学生支援課並びに教職員の皆様のご協力があつたからこそ、創縁祭を開催することが出来ました。心より感謝申し上げます。また来年度の役員につきましても、引き続きお力添え賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## ミステリー研究会

文学部2年 藤村昇輝

こんにちは。ミステリー研究会です。私達はミステリー小説だけでなく、映画や謎解き本なども使用してミステリーに触れています。週に1回ほどラーニングコモンズや一般教室を利用して活動しています。「ミステリー」は主に推理小説を指しますが、「ミステリー」という名前で活動しているため、色々な分野にも触れていこうと考えています。まだ行なっていないゲームや体験型イベントの参加も検討中です。



6月のPOP祭ではサークル員のお勧め本を紹介し、11月の創縁祭ではお勧め本も紹介しながら、謎解きを一から作成してお越しいただいた方に解いてもらいました。

POP祭と比べるとレベルアップした展示発表が出来たのではないのでしょうか。来年度もぜひお越しくください。

初心者から愛好家まで誰でも参加でき、ミステリーに詳しくない方でも問題ありません。読書に抵抗のない方、推理小説を創作するのが好きな方、ホラー好きの方など、少しでもミステリーに興味のある方はぜひ私たちの研究会でお待ちしております。一緒にミステリーの世界をのぞいてみませんか？

## アカペラサークル『Voice of Nation』

文学部2年 清水悠希

こんにちは！アカペラサークルVoice of Nationです！突然ですが、皆さんはアカペラをご存知ですか？ アカペラとは、1バンド4〜6人で構成し、楽器を使わずに声だけで演奏する音楽のことです。サークル員は約70人で、学年に関係なく様々な人たちとバンドを組み、歌いたい曲を歌っています。練習は週に2回、バンドごとに練習時間を決めて、みんなで集まって楽しく練習しています。ライブは6月のPOP祭、8月の夏ライブ、11月の創縁祭、12月の冬ライブ、3月の春ライブの計5回です。これらのライブに向けて、みんなバンド練習に励んでいます。POP祭では毎年、その年の1年生たちのお披露目ライブがあります。また、夏、冬、春のライブは、サークルが主体となって、中洲記念講堂でライブをしています。創縁祭は、1年の中で一番盛り上がるライブとなっ

ています。今年の創縁祭でも、たくさんの方々にお越しいただき、教室ライブ、中洲記念講堂ライブともに大盛況でした。アカペラは、まだまだ知り知られていない音楽かもしれませんが、声だけでハーモニーを作り上げる奥深さと、仲間と一緒にひとつの音楽を完成させていく楽しさが詰まった魅力的な音楽です。パートごとに役割は違ってても、全員の声が重なった瞬間に生まれる一体感は、アカペラならではのものです。楽譜が読めなくても大歓迎です。私たちと一緒に、音楽を作り上げませんか？ アカペラが気になる方は、ぜひ私たちのライブに遊びに来てください！皆さんにお会いできるのを、心からお待ちしています。



## ホームカミングデー開催

ホームカミングデーは、大学と松苓会が共催し、卒業生を母校にお迎えするイベントです。2025年度は、11月2日(日)と3日(月・祝日)の2日間、両日とも午前10時から午後3時まで、二松学舎大学九段1号館11階会議室にて開催しました。

内容は、「大学入学案内パンフレット」と「学」の展示、「ねこ松(本学公式キャラクター)」ボード前でのチエキによる記念撮影、押野洋副学長のコーナー(ドイツのマスケット展示)、「ねこ松」のぬり絵コーナー等でした。会場では、「大学入学案内パンフレット」を懐かしそうに眺めている卒業生たちが印象的でした。チラシ等で押野洋副学長の参加を広報した効果があり、ゼミ生やドイツ語の授業を受講した卒業生たちが、先生との再会を楽しみに来場されました。テーブルに用意された菓子「松風」を食しながらの歓談コーナーでは、昔話で盛り上がっていました。また、小林孝彰常任幹事が学生

時代に撮影された昭和40年代の九段校舎の写真が来場者の話題になっていました。

昨年までは1日間開催でしたが、今年は2日間開催し、7割増の230人余りの卒業生が来場されました。

ホームカミングデーは創縁祭(大学祭)と同時に開催しています。

ぜひ大学に足をお運びいただき、学生の発表もご覧ください。お待ちしております。

## 支部総会開催報告

2025年度の支部総会が次のとおり各地で開催されました。

- 北海道支部  
8月30日(土)  
会場 札幌ガーデンパレス  
講演会講師 相庭達也氏
- 岩手県支部  
7月13日(日)  
会場 サンセール盛岡
- 宮城県支部  
8月2日(土)  
会場 ホテルJALシティ  
仙台
- 埼玉県支部  
2月23日(月・祝日)  
会場 ボア・ラクテ

千葉県支部

6月15日(日)

会場 千葉市美術館5階

ワークショップルーム

東京都支部

8月30日(土)

会場 二松学舎大学九段1号館

号館

講演会講師 佐藤晋学長

神奈川県支部

7月26日(土)

会場 神奈川県立地球

市民かながわプラザ

講演会講師 原由来恵教授

長野県支部

7月19日(土)

会場 ホテル信濃路

講演会講師 佐藤晋学長

福岡県支部

10月26日(日)

博多駅KITTE 9階

大分県支部

8月23日(土)

会場 かんてきや大分本店

宮崎県支部

8月8日(金)

会場 銀天ゆずや

## 同期会通信

## 第94期卒業生対象

## 同期会説明会を開催

12月20日(土) 13時より、

九段1号館202教室において、4年のゼミナールの代表者を対象に第94期卒業生対象同期会説明会が開催された。

説明会は、初めに平野光治会長の挨拶があり、小西明徳常任幹事による「同期会について」の説明、続いて第92期同期会の本間ひまり幹事と沼田稔哉幹事による同期会の設立から総会開催までの活動について詳細な説明があった。

質疑応答の後、役員選出を行い、代表幹事に藤川紗綾氏、副代表幹事に伊藤麻里氏、幹事に高橋勇貴氏が選出された。

後日、田窪一牙氏と菅野弘瑛氏の二人が幹事として加わり、94期卒業生同期会役員が決定した。

## 第92期卒業生同期会

## 2025年度総会を開催

10月26日(日) 11時よ

り、二松学舎大学九段1号館802教室において、第92期卒業生同期会2025年度総会が開催され、総会終了後、会場を神保町の海神に移して懇親会が開催された。



# 「人材バンク」を活用ください

2025年10月に新たに石井義雄氏(52文)が登録され、現在、下表のとおり8名となりました。講演等依頼される場合は、松茶会事務局(TEL03-3261-7408)までご連絡ください。

## 人材バンク登録者

氏名	卒業期 学部	内容
高橋 三男	34文	名僧了翁禪師について 民俗紀行家の菅江真澄について
辻 維周	47文・院修14文	音を使った鳥獣害ロードキル、レールキル、バードストライク防止
松尾 廣文	48文	道德教育、学校経営、SDGs教育、教師育成
花岡 邦郎	48文	教員志望学生対象に授業、校務、部活動の実態について
小野澤 豊	50文・院博39文	論語、漢詩、漢字の各講座 興味を抱かせる指導法
石井 義雄	52文	資格全般相談 ビジネス実務法務検定 ファイナンシャルプランナー 家庭用電子・電気機器修理技術者等取得資格数約230種類
宮島 裕介	73政	ドローンに関する説明及び実演 趣味からインフラ点検まで網羅
太田 昌明	78政	簿記・会計・税務教育 社会人や副業、フリーランス起業に必要な知識 公認会計士・税理士兼務

## 事務局だより

2025年度常任幹事会

(第4回) 11月15日(土)

主な議題

1 部会より

ア 広報部会より

イ 会報75号について

イ 総務部会より

会則、細則、諸規程

について

報告事項

① ホームカミングデー

について

② 同期会について

③ 支部総会報告

④ 第27回二松学舎大学教

育研究大会について

(第5回) 1月24日(土)

主な議題

1 部会より

ア 総務部会より

会則、細則について

報告事項

① 部会より

ア 事業部会

イ 組織部会

② 父母会との連絡会につ

いて

③ 内部監査について

④ 第2回二松学舎松茶会

創設100周年記念事

業準備委員会について

⑤ 二松学舎松茶会の名称

について

⑥ 卒業生採用担当者研究

交流会(NEW)につ

いて

## 新支部長紹介

福島県支部

(2025年12月1日付)

中潟宏昭(55文)

## 訃報

戸川芳郎

名誉教授

元大学院文学研究科長

令和7年12月14日逝去

享年94

江本浩二(51文)

静岡県支部支部長

沼津市議会議員

令和8年1月25日逝去

享年65

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

## 表紙

「創縁祭」と同時開催のホームカミングデーは初めて2日間にわたり行われた。参加者は両日あわせて250余名、20代から80代までのOBOGが学び舎を懐かしみ、笑顔をほころばせ交流を深めていた。

## 編集後記

年々気候変動が激しくなり日本では春と秋が短くなり、二季のようだといわれるようになりました。けれども人生の節目を彩る桜の季節はやってきます。第94期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新生活に向け、どのような決意を胸に秘めておいででしょう。弥増のご活躍をお祈りします。卒業生が集う松茶会は本年で創立95年を迎える多世代組織です。各地で活躍されている卒業生との繋がり、本学で学ぶ学生諸氏とのかわり、二松同窓生の絆を深めるためにも本報やHPをご活用ください。ご意見ご感想、情報提供等お待ちしております。

二松学舎  
松茶会報  
No.75

創刊 昭和62年12月1日  
発行 令和8年3月1日  
集所 二松学舎松茶会  
編住 〒102-8336  
東京千代田区三番町6-16  
電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914  
振替口座 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)  
印刷 ㈱サンセイ



二松学舎大学(松茶会)  
ホームページ [www.nishogakusha-u.ac.jp](http://www.nishogakusha-u.ac.jp)  
松茶会 E-mail [shourei@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:shourei@nishogakusha-u.ac.jp)